

# どしんと コミュニケーション



## イベントとお天気

Vol.106

去る11月9日、鯛の千匹干しのイベントが答志で行われました。当日はイベントがスタートする頃から小雨が降り出し、残念なことに、千匹干しか千匹ぬらしか分からないような状況となりました。オープンニングの挨拶で、漁協の組合長はこう切り出しました。

「この雨は私が悪いのか市長が悪いのか。多分市長が悪いのでしょう」私は苦笑いをしながら、雨の中で聴いていたのですが、実は組合長の言った通りだと感じていました。

これを遡る10月14日、鳥羽マルシエのオープンニングが開かれました。台風19号の接近でオープンニングはとも無理だと思われていたのに、台風

予定期間以上に速くなって、

予定期間以上に速くなって、

の太陽光発電所開所式、そして鯛千匹干しと続けざまに雨に見舞われてしまいました。たまたま運よく今まで来ただけなのに、まるで自分に強運がついているかのように思うのは考えものです。

人の力で変えられる運もあります。夢の実現を諦めず、とことん努力すれば、いつか希望が達成されることもあるでしょう。それを人は、努力の内容を見ずに、あの人は運が良いと言っこともあります。

「世の中は、なかなか自分の思った通りにはゆかない」という考えがある一方、「自分の思った通りになる」という考えもあります。目標に向かってとことん努力すると、必ず夢は実現するという考え方は、そして途中で夢をあきらめてしまうと、これは無理だとあきらめた途端に、その人が思った通り無理になってしまうそうです。

変な話になってしまいました。お天気は思い通りにならない。晴れ男も雨女もないということでしょうか。

なお、鯛を並べ終わる頃には雨が上がり、ギネス挑戦も無事行われたことを申し添えておきます。



Vol.134

## ノーベル平和賞

広報とば4月1日号「イコールパートナーシップ」で、ノーベル平和賞の史上最年少候補者として注目されたマララ・ユスフザイさんを紹介しました。

10月10日、ノルウエー・ノーベル賞委員会は、カイラシユ・サティヤルティさんとマララ・ユスフザイさんをノーベル平和賞受賞者に決定しました。2人は、子どもや若者たちへの抑圧、すべての子どもたちへの教育の権利拡大のために、闘ってきたことが評価され受賞に至りました。

カイラシユ・サティヤルティさんは、子どもの強制労働や人身売買を撲滅するための団体「BBBA/SACC

S・南アジア奴隷解放同盟」を設立し、児童労働や搾取に苦しむインドの子どもたちの救出に取り組んできました。そして保護された子どもたちの社会復帰に向けた教育プログラムや施設の整備を行い、これまで救出された子どもは8万人以上ともいわれています。

また受賞にあたり、マララ・ユスフザイさんは、次のようにスピーチしています。「ノーベル平和賞委員会は、私だけに与えたのではないと思っています。この賞は声なき声を持つ全ての子どもたちのためにあるのです。そしてその声に耳を傾けなければなりません。私は彼らのために語り、彼らと共に立ち上がり、彼らの声が届くよう彼らの運動に加わります。彼らの声を聞かなくてはなりません。彼らには権利があります。彼らには良い教育を受け、児童労働や人身売買に苦しめられない権利があるので、彼らには幸せな人生を送る権利があります。だから私はこれら全ての子どもたちと共に立ち上がります。この賞はまさに彼らのためにあり、彼らを勇気づけるのです」(スピーチ抜粋)